

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年 3月29日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	南川 茂樹
研究課題	間伐材を使用した造形物のサイズによる見え方の差および新たな機能についての研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	南川茂樹	デザイン学部・准教授		造形デザイン	デザイン・制作全般
研究実績の概要	<p>昨年度まで間伐材の需要を拡大するために、家具・空間演出・店舗設計・遊具のデザイン提案をし、一定の効果を得られた。しかし一方では、もともと間伐材の利用を増やす目的で研究を行ってきたものの、それぞれの提案で使用する材は限られていて、特定の空間や特定の対象に向けての提案になり、直接の使用拡大に繋がったとは言い難い。</p> <p>そこで今年度は、より広く多くの対象に向けての提案を考えるべく、過去に提案した造形物のサイズに着目し、サイズダウン、サイズアップすることによって、見え方はもとより機能を変化させ、新たな価値を創造することを目的とする。新たな価値を得た造形物を広く多くの人に使ってもらうことによって、間伐材の需要拡大に繋げる。勿論、代替え材としてではない積極的な使用による間伐材の魅力アピールすることから、木材に関心を持ち森林保護を通して環境についても考えるきっかけを生むことも目的とした。</p> <p>主な成果物として、groveの1/3サイズの「grove 1/3」、1/4サイズの「grove 1/4」を制作。材質・部材すべての縮尺を均一にし、構造を同じく制作した。もともとのgroveは、空間演出として制作し、8面で構成されている幹の内部は空洞となっている。サイズダウンしたのもその構造は同じにしているため、内部が空洞で軽量のため、容易に転倒するおそれがある。それを逆手に取り、単なるミニチュアではなく、幹部分にスリットを施し貯金箱の機能を備えことで、お金が貯まるにつれ安定していくといったユーモアを含んだ作品となった。</p> <p>また、木馬としてのRA ver.Hの1/5サイズの「RA ver.H 1/5」も、もともとのRA ver.Hと材質・部材すべての縮尺を均一にし、構造を同じく制作した。これも単にサイズダウンしただけではなく、机上的なサイズになり、新たに背部に穴を開けることによって、鉛筆立ての機能を備えるようにした。</p> <p>空間演出としての莢も、1/5サイズの「莢 1/5」として制作した。もともとの莢は全長が2mもあり、展示する空間は限られるが、「莢 1/5」は、全長390mmとコンパクトなため、室内空間でモビールとして設置可能となった。特に具体的な機能は課さず、形態の魅力と軽快なイメージで微細な風でも揺らぐ、室内装飾に適したものとして提案した。</p> <p>この研究の成果としての対外的な発表の場として、2017年9月30日～10月8日の期間で岡山市内のアンクル岩根のギャラリーで個展として発表した。会場では、上記の作品を舞台のように設置し、空間全体で研究成果を提示した。会期中は多くの観覧者に好評を頂いた。</p> <p>当初のコンセプトのもと制作されたものを、サイズを変えることで見え方は勿論のこと、新たな機能を生み出せることがわかった。発想法のひとつとして、この考え方に可能性があることが証明できた。</p>					

※ 次ページに続く

成果資料目録

